

JR 永和駅の北側開発に取り組む考えは

石崎 誠子議員

津島市・蟹江町と課題の共有に努める

産業建設部長



▲ JR 永和駅周辺

問 市内8駅のうち、駅周辺に市街化区域が全くないのは永和駅だけであり、他の駅と比べてまちづくりが進みにくい構造的な課題を抱えている。利用者は愛西市民だけでなく津島市民や周辺企業の従事者も多い。乗降客数は年々増加傾向にあるが、駅北側には改札がなく、南側の改札へ向かうには、いわゆる開かずの踏切を渡るざるを得ない。朝夕の踏切は、歩行者・自転車・

自動車が集出し、混雑により危険な状態が続いている。永和駅は市境に位置しており、安全性・利便性の向上は本市だけでは解決しきれない広域的な課題だ。

永和駅を取り巻く環境も大きく変わった今、北側改札口の設置などの駅前開発等の課題解決について、隣接する津島市や蟹江町と連携し、取り組む考えはないか。

答 今後、本市と津島市、蟹江町等関係部局にお

いて、双方の都市計画マスタープランの将来都市構造や土地利用方針の確認とともに、永和駅周辺における現状や課題の共有に努めたい。

永和中学校体育館の早期整備を

問 永和中学校体育館の老朽化対策は、令和8年度予算に設計費が計上されなければ、整備はまた1年先送りとなるのではないか。8年度当初予算に設計費等の関連予算を計上する考えは。また、財源確保の見通しは。

答 現在予算編成中であり、現時点では答えられない。費用及び財源などについても調査している。

問 過去の一般質問において、副市長の答弁で

は、永和中学校体育館は、財源の確保に努め、整備しなければならないという考えであったが、現在の財政状況において、その考えに変更はないか。

答 体育館の整備は、教育環境の確保や生徒の安全、健康を踏まえる必要性が高い。永和中学校体育館は、通常の利用にも支障があり、市立中学校の中ではまだ永和中学校だけ空調が整備されていないことから、老朽化対策の必要性が高いという認識は変わっていない。

各種補助金や有利な地方債の活用、ふるさと応援寄附金などの自主財源のさらなる確保、また学校施設環境改善交付金の活用などのほか、国・県からの情報収集に努め、積極的な財源確保を推し進めていく。